

48

2019.03

新潟市建築設計協同組合（官公需適格組合）
Niigata city Architects Union

MUTSUBI

創立35周年記念号



1. ごあいさつ

2. 委員会報告

総務委員会 業務委員会 開発委員会 事業委員会
意匠委員会 構造委員会 設備委員会

3. 作品紹介 寺山公園屋内教養施設 「い～てらす」

■創立35周年記念企画

座談会「新潟の建築設計者」
～過去からつながる現在（いま）～

組合員（設計事務所）の来歴

座談会「新潟の建築設計者」
～先達から紡がれているもの、そして次世代への継承～

創立35周年記念 講演会

創立35周年記念 組合員懇談会

創立35周年記念 実務者講習会

目次		1
1. ごあいさつ	理事長	松元 博文 2
	副理事長	涌井 勝治 3
	副理事長	丸山 健一 3
2. 委員会報告	総務委員会・業務委員会	 4
	委員長	本間 裕之	
	開発委員会	 4
	委員長	渡辺 純一	
	事業委員会	 5
	委員長	斎藤 学	
	意匠委員会	 5
	委員長	渋谷 聡	
	構造委員会	 6
	委員長	長橋 鐵雄	
	設備委員会	 6
	委員長	伊藤 徹	
3. 作品紹介	寺山公園屋内教養施設「い〜てらす」	翔アトリエ 7

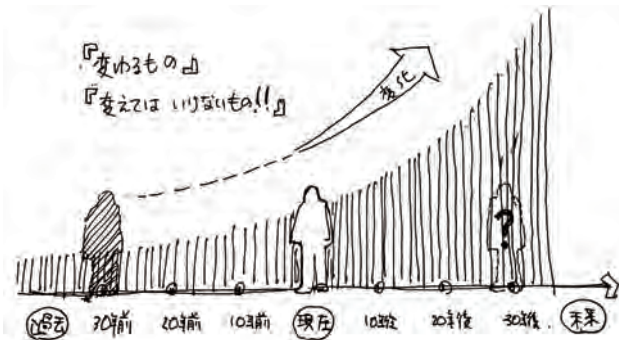
■創立 35 周年記念企画

座談会「新潟の建築設計者」 ～過去からつながる現在（いま）～	9
組合員（設計事務所）の来歴	13
座談会「新潟の建築設計者」 ～先達から紡がれているもの、そして次世代への継承～	15
創立 35 周年記念 講演会	20
創立 35 周年記念 組合員懇談会	21
創立 35 周年記念 実務者講習会	22

新潟市建築設計協同組合は昨年度で創立35周年目を迎えました。

11月の「35周年記念講演会・懇談会」、1月半ばに開催した「35周年記念講習会」、そしてこの「睦び」の35周年記念号の発行を最後に、2018年度に予定された記念事業を無事終えることができました。

これもひとえに、組合員の皆様、講師の先生や新潟市の建築部局の皆様、



さらに事業企画運営にご協力いただいた各委員会委員の皆様のご協力のたまものと感じております。

紙面をお借りし改めて、厚く御礼申し上げます。

さて、毎年度「睦び」の挨拶を書いています。そのたびごとに一年の時間経過速度が加速度的に増してゆくように感じている自分の年齢を実感します。

「もう一年がたってしまったのか・・・」「ジャンーの法則」恨めしやという心境です。

しかし、これとは別に、社会やビジネスの変化の「スピードや複雑性」がこれまで以上に増してきていると感じているのは、私のみならず、若い皆さんも同様だと思います。

「今何が起きているのか」「これから何が起きるのか」という問いは、ビジネス社会の誰もが向き合わなければならない問いの中でも、最重要なものだと思います。

日本の人口減少や少子高齢化は、明らかにあらゆる産業にとって実体的影響を及ぼし始めています。建築関連産業においても同様に、人口減少や高齢化が引き金となって、あらゆる改革が試行されています。

その中で建築設計業務も、FM(ファシリティマネジメント)・CM(コンストラクションマネジメント)の発展や、建築に対する社会的要求の変化の「スピードや複雑性」が増加の一途をたどっています。我々の設計ツールとしてのCAD環境も毎年バージョンアップをしないメーカーなど一つありません。

このような状況の中で、われわれにとって重要なのは、「環境が変化する」ことに対して「組織を永續させる」という意思があるならば、それは組織のあり方やメンバーの考え方が「どんどん変化していく」ことが前提となっていると考えています。

「集まり・組織する」ことによって生まれる新たな価値を、このような状況の中であればこそ発揮すべき時なのだと思います。

二年前の「睦び」に、「『変えては行かないもの』を意識しつつ、「変わるべきもの」への対応を意図を持って準備しなければいけない。」と書いていますが、今年は「準備」から「行動」へと転換してゆきます。

そのためにも、2019年度は若き組合員の皆様の「力を結集」し、「対話」を重ね、「問題意識」を共有し、「自己教育」しながら「行動」を起こすことに専心してゆきたいと思います。

“未来を予言する最善の方法は、それを自ら創り出すことである。”をモットーに「行動」開始です。

最後に、36周年目を迎えた新潟市建築設計協同組合への皆様からのさらなるご指導ご鞭撻をお願いし、巻頭のご挨拶とさせていただきます。





平成30年11月16日に行われた組合創設35周年記念講演会・懇談会を、組合員の皆様のご協力で盛会のうちに無事終われましたこと誠にありがとうございました。

また篠田市長には任期最後の日に ご臨席いただき ご祝辞を頂戴できたことにあらためて感謝申し上げます。

さて平成30年度も終わり平成31年度が新たに始まります。

今年5月の第36回通常総会は「令和」との新たな元号で迎えることとなり、小生も新たな気持ちで組合運営に取り組んでいこうと思います。

平成30年度の組合経営実績といえば過去2年間の赤字決算から脱却し多少の黒字決算となりそうな状況です。とはいえ先々の見通しが明るいわけではありません。

組合として現在受注している学校大規模改造工事設計業務委託を継続していただける様に努めることは当然とし、更に設計業務と工事監理業務との一貫性を確保するための監理業務委託の受注に努めていきたいと思えます。

また平成29年度は市公募の建築プロポーザルに2件選考されました。

公募件数が2件でしたので全て当組合が選考されたことになり担当組合員の技術提案が高く評価された結果と思えます。

今後、難しい事とは思いますが建築プロポーザルに当組合より複数の提案参加が出来る様に市当局に働きかけていきたいと思えます。

終わりに組合に寄せられる種々のご意見を、今後の組合運営に生かしていきたいと思えますので今後とも組合員の皆様の、ご指導やご助言を宜しくお願い致します。



今年度は新元号の元年でもあり、例年よりも一層気を引き締めて組合活動に臨みたいと考えています。

創立35周年目を迎えた昨年度は、11月に「35周年記念講演会・懇談会」、そして1月には「35周年記念講習会」を行いました。

共に多くの皆様に御出席頂き、この場をお借りし改めて御礼申し上げます。

一昨年の「組合員講習会」で、組合員の皆様より頂いた貴重な御意見を胸に、本年度も松元理事長はじめ全理事が一丸となって様々な活動を行ってまいります。

当組合を取り巻く状況の厳しさに変りは有りませんが、それでも将来の成果に繋がる種を撒き続ける事が必要だと考えています。

今年度も組合員皆様の為、誠実に役目を果たすべく努力したいと思いますので今後ともご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。

■総務委員会

組合員の皆様には日頃から組合の事業にご協力いただき感謝申し上げます。

平成30年度の総務委員会の事業内容の中からいくつかの内容について活動状況をご報告いたします。

1. 平成30年度収支中間報告について

平成30年度の収支についての確認を行い、平成30年度の収支および決算見込みについて検討を行いました。平成30年度は大型物件も受注して、当初予算を超える見通しがついて組合にとって一安心となりそうですが、次年度以降を考えるとまだ厳しい状況が続く見通しであることを確認し、今後の監理業務受注に向けての対応や方針を委員会で検討しています。

2. 平成30年度組合員講習会について

組合員講習会を下記の日程にて開催しました。

日時 平成30年11月16日(木)

会場 朱鷺メッセ スノーホール

内容 1. 新潟市建築設計協同組合

創立35周年記念講演会

講演 「ZAHA HADID案

新国立競技場の設計」

講師 (株)日建設 右高博之様

(株)日建設 杉浦盛基様

2. 懇談会 ホテル日航新潟 31階

3. 貸付金規定の改正及び前払い金に関する規定の新規制定について

平成29年度受注した大型物件「北区役所」及び「潟東小学校移転」について、新潟市との契約に基づく前払い金の支払いが発生し、この前払い金の支払いに際し組合内で規定がなく、新規に制定することとし総務委員会で検討しました。貸付金の規定についても文章の整合性を図るため改定を検討しました。

4. 組合内プロポーザルについて

組合内プロポーザルを平成30年度は一件受注し、参加作品の組合員への公開について公開、非公開等の基準が明確でなかったため、今後同様の組合内プロポーザルは原則公開する方向で募集をするように検討しました。

■業務委員会

平成30年度の業務委員会の事業内容について活動状況をご報告いたします。

1. 新潟市発注の大規模改造工事について

平成30年度は小中学校大規模改造工事の設計業務が6件発注され、それぞれの担当事務所を選定しました。

2. 新潟市の特殊建築物等定期点検業務について

3年目となる小・中学校の特殊建築物の定期点検業務も今年度分として58件を受注し、担当事務所を選定しました。

3. その他

- ・プロポーザルで受注した「潟東小学校移転改築・潟東中学校一部改築実施設計業務委託」の担当事務所を選定しました。
- ・新潟市より特定天井のある4施設の天井改修工法検討業務を受注し、これについて担当事務所を選定しました。
- ・新潟市産業振興センターの今後の改修実施設計を受注し、担当事務所を選定しました。
- ・平成30年小・中学校冷暖房設備設置実施設計を11校受注し、担当事務所を選定しました。

日頃より皆様には、開発委員会にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

平成30年度の開発委員会の活動は、29年度に引き続き、特定建築物(新潟市立学校施設等)定期点検業務の合同説明会の準備・開催を8月に行いました。

平成29年までは、定期点検の調査は主に冬休み中となるため、積雪による調査不能となる状況が心配されていましたが、今年は夏休み期間にも調査が行えるよう、担当課から早期の発注をいただき説明会の開催日を前倒しました。組合での本業務は3年目を迎えることになり、平成31年からは2回目の点検に入ることになりますが、今後の体制整備も考えたいと思います。また、11月には構造委員会と合同で市組合の35周年を記念し、講演会・懇談会を開催しました。講演会では計画を上回る多数の来場があり、日建設の右高様、杉浦様よりご講演いただき、とても興味深い内容で大変好評をいただきました。懇談会では引き続き講師のお二人を交え、いろいろなお話を伺うことができ、また組合員同士の懇親も深められたと思います。

今後も開発委員会の活動につきまして、皆様のご理解とご協力を、宜しくお願い申し上げます。



H30学校施設等定期点検合同説明会 18.08.07



創立35周年記念 講演会・懇談会 18.11.16

事業委員会

委員長：齋藤 学

組合員の皆様には日頃より事業委員会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

平成30年度は組合創立35周年ということで機関紙「睦び」35周年記念号の作成を担当いたしました。記念号の発行にあたり2つの特集記事を企画し掲載させていただきました。

1つ目は、組合員の皆さまの設計事務所来歴となります。組合員の皆さまのご出身や、新潟建築家のつながり、また、組合設立時に多くの事務所が設立されていることなどが見て取れるものとなっております。

2つ目は、座談会を2部構成で行い、新潟の地で設計に携わる方々がどのような思いで建築と向き合ってきたのか、またその思いをどのように継承してゆきたいのかといった視点で、お話を伺いました。

企画にご協力いただきました皆様には、この場を借りまして御礼申し上げます。

意匠委員会

委員長：渋谷 聡

日頃より意匠委員会の活動にご協力をいただき大変ありがとうございます。

意匠委員会は、実務者講習会の企画・開催を担っており、組合の設計業務で役に立つ情報を皆様に提供することを重要な役割と考えています。

平成30年度は、新潟市の新階技監のお話を聞くなどして、今後の都市の発展に私たちがどう向き合い、どう連携して行けるのかを考えたいと思いました。そうした中で平成30年度の活動について報告させていただきます。

1. 委員会開催と協議内容

第1回：平成30年8月21日

① 勉強会

- ・資料読み合わせ

② 協議

- ・建築法規関連での市の取り決め事項について
- ・大規模改造の図面作成要領の検証について
- ・実務者講習会について

第2回：平成30年12月13日

① 協議・検討

- ・実務者講習会の内容の確認・検討と運営詳細

2. 活動内容報告

① 勉強会

「新潟市財産白書」「新潟市技監・建築部長マニフェスト」「都市部の都市デザインと今後の進め方（技監試案）」の読み合わせをしました。新階技監は都市デザインに詳しい方ですので、事前に試案の資料をいただき知識の共有を図りました。

- ② 建築法規関連での市の取り決め事項について外装塗材のアスベストに関しての、市の公共建築と労働基準監督署と廃棄物対策課による取り決めについて調査し、業務で役立つよう取りまとめました。

- ③ 大規模改造の図面作成要領の検証について改訂された図面作成要領の使い勝手についてアンケートを取り、その結果を取りまとめました。

④ 実務者講習会について

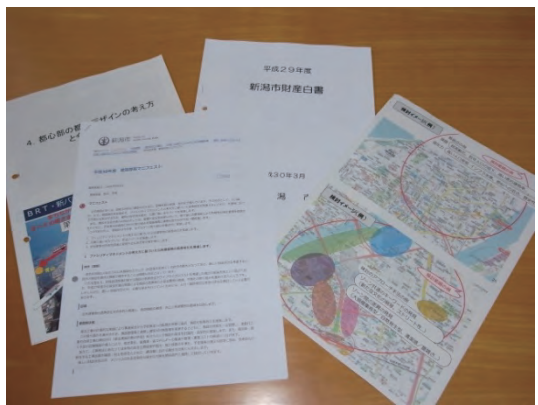
平成30年度の実務者講習会は、平成31年1月18日（金）午後に新潟テルサで開催しました。

新潟市の新階技監からの講演「新潟市のまちづくりの可能性」設備委員会が主体となつての外部講師の講演「ZEBについて」、意匠委員会からの活動結果報告、という3つのテーマで講習を行いました。

「新潟市のまちづくり」については、その後も懇談会を開くなどして勉強を続けています。

意匠委員会は、皆様の技術的な一助になれるよう活動を続けてまいります。こんなことを調べて欲しい、こんな共通資料を作ってほしい、などの要望がありましたら、遠慮なくお聞かせください。

今後ともよろしくお願ひいたします。



「新潟市のまちづくり」懇談会

構造委員会

委員長：長橋鐵雄

構造委員会の活動内容を報告させていただきます。平成30年度は35周年記念講演会・懇談会を開発委員会と共同で企画し、開催致しました。開発委員会との合同委員会を平成30年10月10日（木）に開催し、当日の役割分担、進行シナリオ等の確認など、各委員からの意見を聞き、記念講演会・懇談会の準備会議を行いました。今回の講演会は、(株)日建設計様の協力で建築設計者として大変興味のある、「ZAHADID案新国立競技場の設計」と題して、実際に設計に関わられた意匠・構造の設計担当者より紹介いただきました。当日は組合員及び県内の建築関係者約200名から参加いただき、3時間という制約の中で、講師の方には意匠・構造と紹介したい内容が沢山あったと思いますが、時間が短かったこと、参加者には、聞きたい事が沢山あった事と思いますが、時間の関係で質疑応答が出来なかった事は、お詫び申し上げます。講演内容は設計者の思いが伝わるよい講演会ができたと思います。

ご協力いただきました皆様には感謝申し上げます。

講演会概要、講演会の写真を下記に記載致します。

日時：平成30年11月16日（金）14:10~17:10

会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター
2階メインホール（スノーホールA）

講師：右高博之 氏

(株)日建設計 デザインスタジオ主管

杉浦盛基 氏

(株)日建設計 構造設計グループ部長

参加者：組合員関係117名、県内建築関係者70名
学生6名



右高博之講師の講演風景



杉浦盛基講師の講演風景

設備委員会

委員長：伊藤 徹

平成30年度の設備委員会では「ZEB」について組合員の皆様にお伝えしました。

建築物における環境負荷低減は、いろいろな社会的動きが見られます。

その中で我々がよく目にし、又知っておくべき内容が、「省エネ法」と「ZEB」になると思われます。

省エネ法については、前回の活動において2年に渡り、概要と計算例等をお伝えしてきました。又、日頃の実務でもかなり関わる機会が多いのではないのでしょうか。

ZEB(ネットゼロエネルギービル)という言葉は世の中に出てあまり年月が経っていませんが、経済産業省でロードマップのとりまとめがあり、業界団体等とも連携して取り組みが進んでいるので今後普及が進むと考えられます。

1月18日に行われました実務者講習会において、講師をお招きし、「ZEBについて」という内容で講演を行いました。様々な事例を紹介頂き、大変興味深い内容でありました。今後の業務の参考にさせていただきますと思います。

講師を始め、ご協力いただきました皆様、講習会に参加されました皆様たいへんありがとうございました。

実務者講習会

日時：平成31年1月18日（金）

会場：新潟テルサ3階大会議室

講師：市川拓也 氏

(株)山下設計 機械設備設計部 部長

講習会の写真。ZEBに関するパンフレットを以下に掲載します。



市川拓也講師の講演風景



寺山公園屋内教養施設 「い〜てらす」



建物完成時のドローン撮影



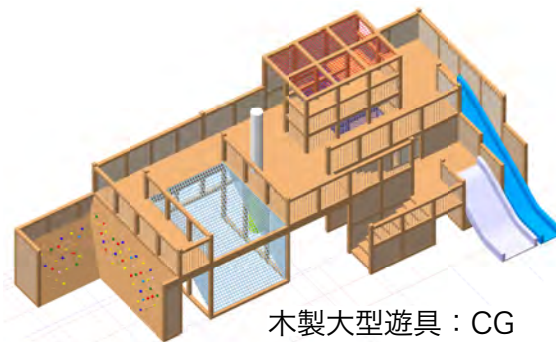
寺山公園は隣接するスポーツセンターと連携して、多様なレクリエーションの場となると同時に、子育てや他世代の交流の拠点となる公園です。公園は芝生に覆われたひろばを中心に大型複合遊具や散策路、駐車場が配置され、中心に子育て交流施設と休息施設からなる複合施設があります。

施設内の子育て交流施設『い〜てらす』

『い〜てらす』は、「遊ぶ」「つながる」「楽しむ」を基本理念とした育児支援・子育て世代の交流空間と、地域の世代間交流の推進を目的として計画された公園の休息空間で構成されています。

外観は3つの高さの異なる直方体が45度の相でかみ合うような形態を、曲線の底で繋ぐ構成をしています。それぞれの直方体の内部空間の天井高さは、約5m、4m、3mとなっています。外壁は、高性能GWt=100+フェノールフォームt=30外断熱にGL鋼板T=0.4の立平葺仕上/屋根は外断熱Pft=50+ウレタンフォームt=30(内部)にシート防水/軒天や開口部・独立柱周りに杉材を多用しています。開口部は住宅用の樹脂+アルミの複合サッシにLow-Eペアガラスを用い、外皮性能の省エネ化に努めています。

内部は、3つの直方体の中にそれぞれ、「休憩・飲食ゾーン」「幼児ひろば」「低学年ひろば」と名付けた主空間があり、杉材のルーバー/羽目板/横格子などの形状に加工利用し、「内装の木質化」を図っています。内部のS柱(200~250角)はクッション材を下地にした床用カラー長尺シート仕上としています。低学年ひろばの大型遊具は、構造集成材120角の軸組を面材で補強し、本体構造と分離したオリジナル遊具です。ポルタリング/ネットクライミング/迷路/滑り台などが合体した遊具です。



木製大型遊具：CG

幸いにも、この施設を含む公園事業が、この秋に「国土交通大臣賞」を受賞でき、市の皆さんや設計・工事の皆さんが一堂に会し、楽しい時間を過ごすことができました。



南：外観



東：外観

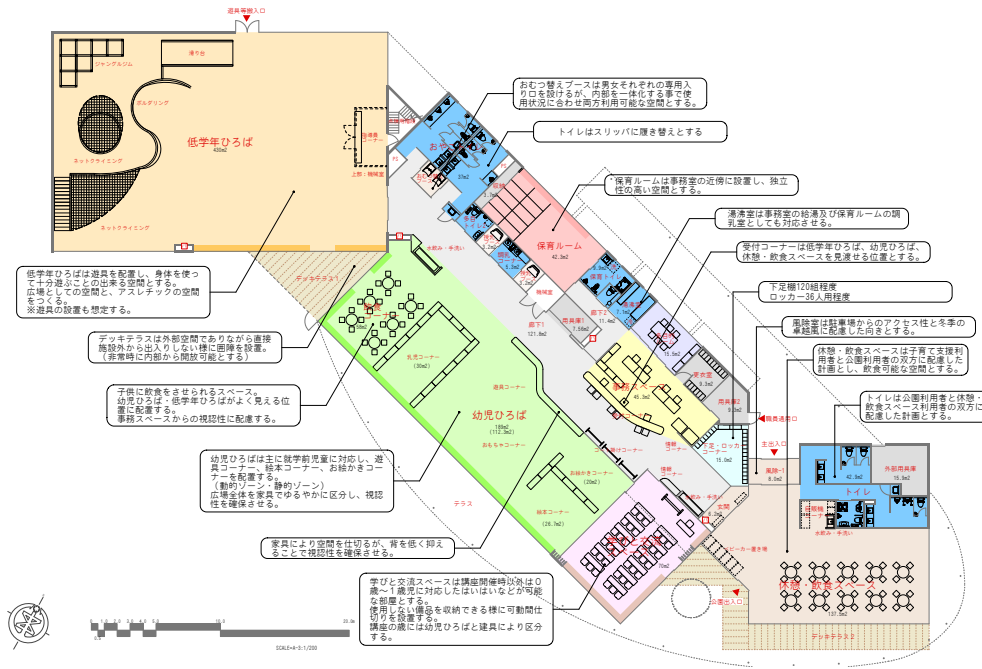
設計・工事期間
2014年10月~15年3月：設計者選定プロポ/基本設計
2015年度：実施設計
2016年10月~2017年10月：工事
2018年：4月開園

設計担当事務所（新潟市建築設計協同組合）
総合/意匠：翔アトリエ
構造：(株)建構造研究所
設備：(有)オヤマツ設計事務所
公園：(株)グリーンシグマ

工事担当会社
建築：(株)廣瀬/空調換気：研冷工業(株)
電気：(株)荻荘電機/衛生設備：エアブラック(株)



休憩・飲食ゾーン テラス



幼児ひろば



低学年ひろば

建築概要
建設地：新潟市東区寺山1653
用途地区：指定なし/22条地域
主要用途：児童福祉施設
構造：S造 2階建
建物種別：準耐火構造(コ-2)
敷地面積：45,553.64㎡
建築面積：1,560.50㎡
床面積：1,357.79㎡ (1F:1,331.73/2F:26.06㎡)
最高高さ：7.114m

「新潟の建築設計者」～過去からつながる現在(いま)～

2018年は新潟市建築設計協同組合が創立されて35周年という節目を迎えた。先の30周年目には、「先達に聞く」というテーマで組合の歴史を概観し、いつの時代にも「建築設計の本分」に基軸を置き、「組合の将来展望」を持ち続ける視点を失わないことの大切さを再確認した。

今回の35周年記念号では「新潟の建築設計者」というテーマで、座談会を2部構成で開催した。

第1部では「過去からつながる現在(いま)の新潟」と銘打って、組合創立以前より新潟の地で建築設計に携わる方々がどのような思いを持って建築と向き合い、また、その思想を次世代へどのように引き継いでゆくか、という点についてお話を伺った。

設計に携わるきっかけ、設計事務所開設への経緯

敬称略

斎藤(司会)： 35周年ということで、組合創立以前より新潟で建築設計をされてこられた方々にお集まりいただきました。まずは、建築設計に携われるきっかけについて、そして中央ではなく新潟で建築設計事務所を立ち上げられた経緯について、お話を伺いたいと思います。

駒澤： 建築に携わるきっかけのひとつに、戦争がございました。私は新発田の出身で、学校は新潟県立新発田工業学校(現在の新潟県立新発田商業高等学校)です。戦時中だったため、工兵隊みたいなのが必要ということで半ば無理矢理、職人の道である工業学校に入り、その後昭和25年に新発田市役所建設課に入りました。昭和20年が終戦ですから5年しか経っていない。戦後直ぐの国民は食べるのが第一でしたので、学校や公共施設はおざなりになっていました。それらを何とかしなければいけないと、仕事はものすごい量でした。そのほとんどが木造建築で、コンクリートや鉄骨なんて、やりたくても物資がなかった。だから、少ない資材で、とにかく国民が住めるよう公営住宅をつくれ、そして学校をつくれということで、山ほど仕事があったわけです。そんな忙しい中で設計の仕事をしていたのですが、設計とは関係のない所で当時の市役所の仕事に対して違和感を持っていて、その後役所を辞めました。ただ、自分は「やっぱり建築が好きだ。建築をやらなければ」という思いで市役所を辞めてすぐに小さなゼネコンに入りました。まずものづくりから始めていこう。設計をやるのはいいけれど、とにかく頭でっかちで内容が伴わないではしょうがないと、法被を着て頑張っていたわけです。その後、もう少し大きな仕事をやりたいと思い、別のゼネコンに入り、そこで富山県の現場で仕事をしました。ものづくりの形というものが一通り分かったら設計事務所を始めようというのが当初からの計画でした

出席者(敬称略)

駒澤 昭平 【相談役】太陽設計(株)

鈴木 正二 【相談役】(株)鈴木設計企画

田中 工三 (株)堤建築設計事務所

松元 博文 【理事長】翔アトリエ

涌井 勝治 【副理事長】涌井電気設備設計室

司会 斎藤 学 【事業委員会委員長】

■新潟市建築設計協同組合にて平成30年11月8日収録

ので、新潟駅前ビルの現場が終わったのを機にゼネコンを辞めて、中央設計(のちに太陽設計)を立ち上げました。当初は、工事関係をやりながら併用して設計事務所を始めました。新潟市の工事を請け負っていた時に、新潟地震が発生し、投入していた足場や資材が津波に全部やられました。これじゃあ工事部門はもうできないと判断し、本格的な設計事務所を始めたのが昭和39年以降ですかね。私は、とにかく好きな仕事を好きにだけやりたくて。これが当時の気持ちでしたね。

松元(理事長)： ありがとうございます。年表を見ながら聞いていたのですが、駒澤さんが独立されてその2年後に新潟地震が発生。その頃は何を設計したいかではなくて、その時代その時代の要求に応じていくことを、ひたすら一生懸命にやられてきた。その部分に関しては、私もこれだけ駒澤さんと年が離れていても一緒だと思います。

鈴木さんは駒澤さんの事務所で学ばれて独立されていますが、お話を聞かせてもらえますか。

鈴木： 私は新潟県立新潟工業高校卒業です。当時は建築を勉強していると、設計事務所に勤めるとか、設計の仕事をするのはステータス・憧れでした。高校卒業後に横浜市役所に勤めながら、夜間で大学を出ました。その頃に横浜で出会った高校の先輩が新潟に戻り、たまたま駒澤さんの事務所(太陽設計)に勤めていて、もし設計をやる気があるなら紹介してやるから来るかというのが、駒澤さんの所にお世話になるきっかけでした。設計事務所は仕事に波があるけど、入社した時は忙しい時期でした。でもあの頃は技術的なことを勉強することで精いっぱいでしたから、忙しくても楽しかった。その後1級建築士を取得した頃、身内が「経営コンサルタントの資格を取って独立するから、鈴木さんをタイアップできる。一緒にやらないか」という話がありました。



駒澤昭平【相談役】太陽設計(株)

いろいろ悩んだけど、俺も若かったし、「じゃあそうしようか」と言っただけで、すごく不安だったけれども、走り出したら後ろを向くことはできないからと思ってね。その人の場所を一時的に借りて、そのあと今の沼垂に事務所を移しました。今考えると、28歳位だったから、もうちょっと年を取ってればそんなことはしなかったかもしれない。無謀に走ってきて、何とかかんとか。忙しければ徹夜も辞さないし、仕事があれば何でもやってきた。設計をやっている楽しさは色々と駒澤さんに教えて頂き、そんなのがあって今日があるということです。

松元(理事長)： 横浜に行って夜間で大学を卒業された時期は横浜市の建築課に居られたのですか。

鈴木： 建築というか、当時は横浜の3分の2位が丘陵地帯で、その開発事業と建築の両方に関わっていました。

松元(理事長)： 独立されたのが28歳。

鈴木： ええ。本当に無謀っていうか、右も左も分からないのがポッコリっていう感じ。

涌井(副理事長)： 当時は、「電話・ドラフター・鉛筆」があればいいみたいな。あとはちょっとした知り合いが居れば。特に設備事務所は今でもそんなに設備投資が必要な業種ではないのかもかもしれないけれども、わりと簡単に独立できたのかな。私が独立したのは昭和61年で31歳。設備設計の場合は意外と業者の施工図の手伝いをしたりとかして、それがつながりになって、意匠設計をしている事務所と知り合いになれたりとか。意匠と設備の違いはあると思いますけどね。

斎藤(司会)： それでは次に田中さんお願いします。

田中： 私は独立したのではなく、先代から事務所を受け継ぎ、そして今年、次の代への引継ぎをしました。

私の生まれは燕市です。燕市は洋食器産業に携わる町であり、実家は金物屋でした。そのせいか子供の頃から職人というか、物をつくるのが大好きだったのですが、子供の頃は建築をやろうな



鈴木正二【相談役】(株)鈴木設計企画

て全然思っていなかったもので、高校は普通高校に進学しました。ただ将来は、物をつくる方向に行こうということだけは考えていましたね。高校卒業後、これからの時代は建築の世界なら食い逸れは無いなと思いき、東京の建築専門学校へ進学。卒業する時に、東京で設計分野の就職が決まっていたのですが、急遽会社側の諸事情により白紙になりまして、どうしようかと悩んでいたら、たまたま親の知り合いが新潟県から燕市役所に出向しており、その方からの紹介で堤建築設計事務所(以下堤設計)への入社が決まり、新潟に戻ってきたのが昭和49年の春です。私が入社した時の所員数が一番多く17人程だったと思います。給料は安くて大変(笑)。昼間は会社で仕事をして、時には夜はアルバイトとして別の設計の仕事をする。両方を一生懸命にこなして何とか生活していたような。給料よりも、アルバイトの収入の方が上だった時も。そんな時代でした。ただ当時堤設計は、入社以来、辞めずに長く勤める人が多かったですね。入社2年位で、できようができまいが一つの物件を一生懸命にやれと任される。分からないなりに自分で調べるなり、先輩に聞くなり、なんとかつくり上げていく。それが堤設計の伝統だと思います。ですから、周りの先輩には指導を受けましたが、堤昇三郎(創設者)自身から建築の技術的な話や指導についてはあまり聞いた覚えがないですね。でも、作品の良し悪しについての話や、人間的なつながりとか、そういった話はよく聞いた覚えはあります。

松元(理事長)： 私も今、お話を聞いて田中さんと同じだな。新潟から東京の大学に進学し、卒業後東京の設計事務所に勤めたのですが、入社して直ぐに担当物件があって。もう大学を出てきたのだから、ちゃんと能力があるはずだって。当時は教えてもらうのではなく、どの仕事でもそうですが、現場でも設計でも、とにかく勝手に学び盗めというような。今はどうか分かりませんが、そういう意味で教えてもらうという感覚が育つ環境ではなかったというのが正直なところ。その後、大学に戻ったりしながら、自

分は今後どうしようかと思ひ悩んだ時期があつて、設計がいいのかどうなのか、教える側にいこうか、微妙な判断をしていました。小さい時から本当に建築家になろうなんて思っていなかったのですが、自分の机とか本棚をつくるのが好きで、自分でテンカンやるのが好きだったので最後の判断のときもやっぱり設計をしながら人と一緒にものをつくりたいと思ひ、前の設計事務所を辞めたのが28歳でした。東京で仲間と共同設計事務所みたいなのをやりながら、新潟に戻つてこようと思つたのは、中央、東京に疲れてた感じがします(笑)。どうも、東京でもものをつくっていると疲れてしまう感じがあつて、でも新潟に帰る時に、仲間たちに、「せっかく東京に来て、ここで学んだのだから」って言われましたが、ある意味、地方でやつていくことの良さであると思つていましたね。



田中工三 (株)堤建築設計事務所

設計事務所の代替わりについて

斎藤(司会)：近年、設計事務所の代替わりが多くなっていますが、皆さんはどのように感じていらっしゃいますか。

駒澤：地方の設計事務所は一代というか、そうなる事が多い。それは決して悪いことじゃなくて、それぞれのものの考え方、育つた過程だとかいろいろプロセスがあつて、その中でものづくりをしていくわけですから。

松元(理事長)：私も翔アトリエなんて名前を付けたのは、駒澤さんと一緒に設計者として自分一代なのかなど。私たちは、何か教えなきゃ人が育たない時代に育っていない。勝手に盗んで学べという時代だったので、私の事務所に来たスタッフも、皆勝手に自分なりに学んで独立して行く。そういう事だろうと思つています。

田中：たぶん設計者として事務所に勤めても考え方は皆それぞれ違うと思ふ。事務所の継承といつても、ある程度個人の考えの中で継承しているのでは。昔はもっと独立しやすかつたかもしれ

ないけど、今はなかなか難しくなつてきているからね。

鈴木：当然時代のニーズも変わってくるし、もちろんその人の人の考え方とか個性があるから、それに合つた取り組み方とか、今まで築いてきた足跡とか、そういう財産は引き継いでいける。事務所運営で苦労するのが、営業展開をどうやつてつなげていくかという事。先代のそれを引き継げるメリットはあるだろうし、今まで長い付き合いをしてきたご縁は引き継いでもらいたいなという思ひはあるよね。

駒澤：次に引き継ぐ人たちは、知的財産だとか、あるいは物的財産だとか、それを引き継いでいけるわけですからね。

田中：ずっとつなげてきた事務所は、市や県との仕事の進め方とかやり方とかを理解している。それを引き継ぐことも公共の仕事をする上で大事な事だと思つています。

松元(理事長)：組合役員も次の世代に向けて10歳以上若くなつてきます。だから、組合を守るために何とかしろと今の世代があまり言うつもりはなくて、人が集まつているという価値を上手にそれぞれの時代のやり方で引き継いで行ければと思つています。いつでも明日は見えていないし、今度こうしよう、ああしようという中で、その時代の人たちが組合をつくつてきて、組合という組織そのものを維持しなきゃいけないということだけでやつていくわけではないと思つています。今まで組合がつくつてきた過去の財産を上手に生かしながらも、次の世代の方々が、集まつて仕事をするこの意味や価値をどう見いだしてもらえるかなど。これは一事務所でもそうですし、組合にとっての本質だと思つています。

市職員との関係について

斎藤(司会)：以前に比べると、市の方との関係性が年々築きづらいつたというか、お互いにやりとりしづらくなつてきていると感じられるのですが、皆さんはどう思われますか。

田中：昔は、設計を始める前に市の職員も一緒に集まつて話し合い(一杯飲む)。物件が全部終わった段階で、また市の職員も集めて一緒に技術的な話をする(一杯飲む)。今はそれが無くなつたこと自体、私にしたら不思議で。

鈴木：昔は役所の人も皆、自分で設計を経験しているから、この時はこうだつた、あの時はこうだつたと言えたけれども、今では自分で設計する時間がない。技術的に自分を磨くなんていう場面が少なくなつてきている。お互いにもうちょっと胸襟を開いて、話ができるような方向はあつたほうがいいだろうけれども、なかなか難しいよね。

涌井：設備もそうですけれども、一種の交流が必要ですよ。お互い色々言いたいこともあるわけで、ガスを抜くのに一杯やりながら、カラオケ歌いながら。昔の人は私達のことも理解してくれたいし、私達も市の人達の立ち位置を理解できた。今の市の若い

人達は比較検討資料にしても、説明資料にしても、設計者と技術的な話をするのが少なくなっている。技術者というより事務処理的な方が濃くなってきているのかなという感じはする。

鈴木：市の人も技術者のはず。ただ、昔と違って事業全体のテンポがすごく早い。だから、こちらもあまりコミュニケーションを細かく図る暇がなくて、もうちょっと時間のゆとりが欲しい。

松元(理事長)：立場が違えこそすれ、向こうもこっちも建物をつくるころ。忙しいからという理由で、こんな物をつくりたいね、こんな事はこの前と違って失敗できないよね、みたいな形でやりとりできる機会って、極端に減っていると思う。結局何をつくりたいのかと聞いてもなかなか返事が返ってこないから、こちらからもあまり聞かなくなってしまって。こんな物をつくりたい、今回はこんなふうにしたい、今まではこうだったけれど、今はこんな素材もあると提案しても、なかなか返ってこない。そうすると、設計者側も提案の仕方とか立ち位置を変えていかなければいけない。事業委員会で齋藤さんが、新潟市の若手と色々な事をやろうよと投げかけても、なかなか応答が返ってこないよね。

齋藤(司会)：当然かもしれませんが、向こうは市職員としての立場でしか話をしてくれなくて。以前、市と組合で共同研究をしていた時は、研究後の懇親会などで、技術者としての話ができていたと感じています。その時の市の方々とは今でも話がしやすいのですが、その後、新しく担当されている市の方々とはなかなか技術的に踏み込んだ話が来ていません。

鈴木：プライベートの時間を大切に人が増えてきているのかもね。

齋藤(司会)：そういう方もいらっしゃるし、そういう場を組合側から積極的に設ける事が出来ていない事も原因だと思えます。

駒澤：組合としては、現実はこちらだからどうしようもないよね。では話が先に進まないわけでしょう。だから、その辺も考えてみる必要がありますね。

松元(理事長)：人の知恵。集まるからよりいいものができる。その感覚は組合のメンバー皆に残っています。

次世代の設計者へ

齋藤(司会)：これからの時代をつくっていく若手組合員の方々に対しての期待や、頑張してほしいところはあるですか。

駒澤：市職員の方にはいろいろな方がいらっしゃる。中央を経て地元に戻ってこられた方もたくさんいらっしゃる。そういう方々にテーマを変えてお話をいただくとか、組合員同士でも講義しあうことも大事でしょう。もう一つは、市職員の皆さんをどんどん誘い込んでいかなければだめだと思います。市職員と組合員で分け隔てなく、技術者同士という形の中でやっていくことが必

要だろうと思う。

涌井：技術講習会などにお声がけすると市職員の方々も結構来てくれます。たとえば、夜ちょっと意見交換会をしますかとかいう方向に持っていくような仕掛けも必要かと思います。

齋藤(司会)：技術者として、個々でのつながりを持つということですね。

鈴木：私たちの時代は、仕事と自分の趣味を一緒になってやってきているところがあって、どこかに熱い気持ちがないと設計業務は続かない。皆で価値観を共有して、お互いに刺激し合えるようなことは必要かもしれない。そんなふうにしていって盛り上がった中で、いろいろな連帯が生まれ、新しい切り口が生れると思う。難しい時代になってきたのは確かだよね。

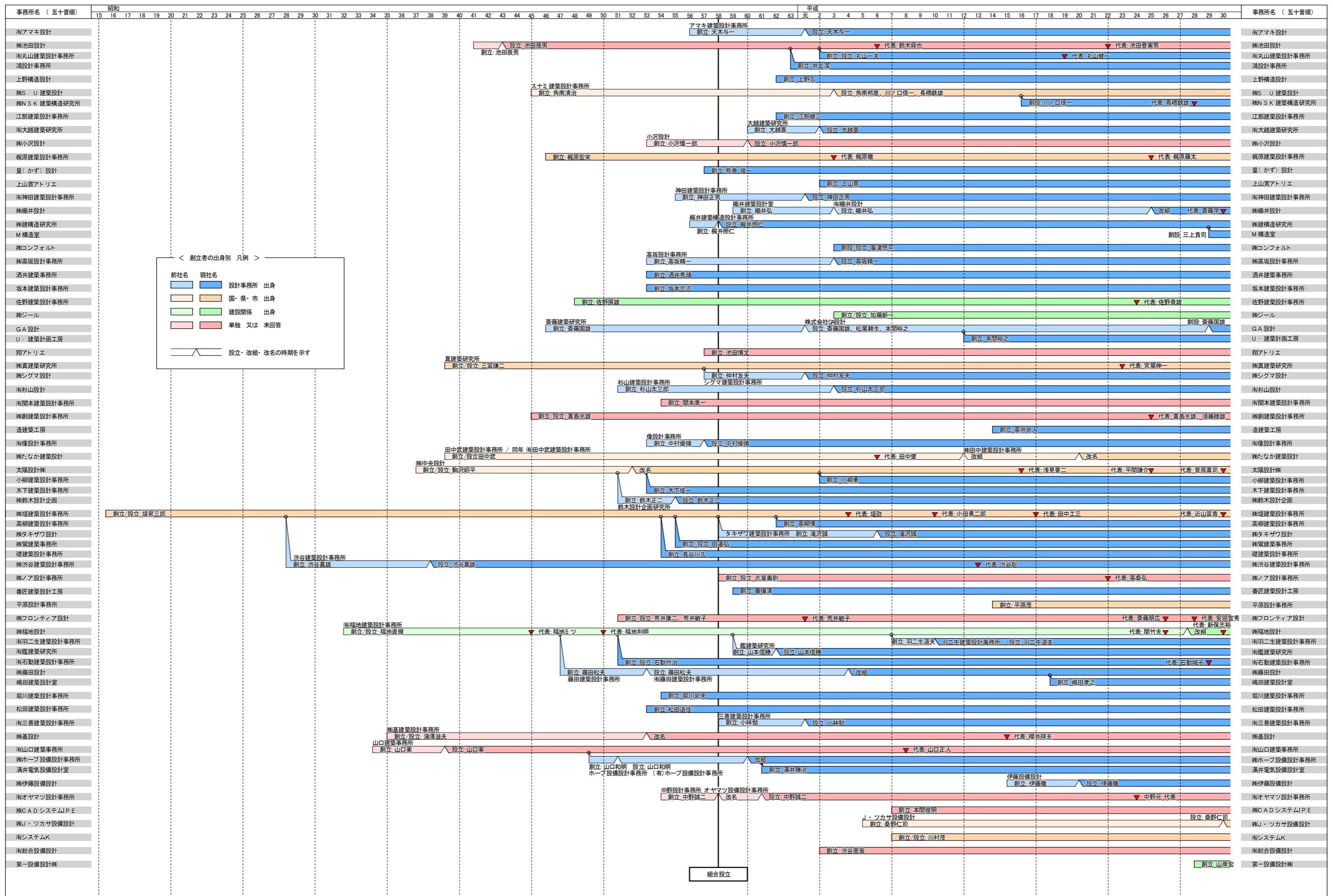
田中：たぶん、建築をやろうなんていうのは情熱を持っている人達がいっぱいだろうと思う。そういう若い人達を集めて何か一つのことをやってみて、その結びつきを次の世代につなげられるようにしていく事が、組合の発展・継承には大事だと考えます。また、役所の方々には、こちらから提案を出す事が必要。組合でいろいろと意見を出し合って、役所が欲しい所に手が届くような提案型ですかね。今後、市役所と付き合っていくにはそれが大事だと思います。

松元理事長：私達は技術者ですから、技術を真ん中に置いて話をする事が必要。でも、その技術もあつという間に変わり、法令も変わっていく。そんな中ネットを検索すれば、いろいろな情報は出てくる。その情報を持っていても、こすれ合っていないとそれが知恵にならないと思う時があります。お互い知恵を出し合っていくためにはどこかでこすれなきゃいけない。でもそこには、年齢差もあって、市の職員の中心は今20~30歳代ですからね。そうすると、期待するのは、市も組合も若手メンバーという話にはならざるをえないかなとは思っています。

齋藤：今日は、皆様から貴重なお話を伺い、大変勉強になりました。このお話は、これからの新潟の設計を担っていく若い方々に伝えていかなければならない事だと感じました。

本当にありがとうございました。





本表は2018年8月の事務所代表者への調査に基づき作成しておりますが、万が一不整合または齟齬がありました場合は、ご容赦願います。

「新潟の建築設計者」～先達から紡がれているもの、そして、次世代への継承～

第1部に引き続き、第2部では、新潟の地で、中心的に業務に携わる世代の方々が、どのような思いや志しを持って建築と向き合っているのかお話を伺った。その中で、先達から紡がれているもの、そして、それを、今度はどのように次世代へ継承していきたいかが透かし見える座談会となった。

■新潟市建築設計協同組合にて平成30年11月20日収録

新潟で設計を始めた経緯について

敬称略

齋藤(司会)： 本日は、新潟で設計をしていくことについてどのようなお考えをお持ちか、皆様にお聞きできればと考えております。実は先日、新潟で事務所を創設してこられた方々にお集り頂いて、建築に対する思いや、今後どのように、その思いを引き継いでいただきたいか、という話をお聞きしたところです。

今日集まっていたいただいた皆さんは、事務所を継承された方々ですが、先輩方の思いを、どのようなお考えで引き継いでいらっしゃるかをお聞きたいと思っております。

また、将来について、なかなか事務所の担い手、設計者のなり手が少なくなっている中で、自分が経験してきたことや思いを、どのように繋げていきたいかという点についても聞かせていただければと考えております。

まずは、新潟という地で設計をされている経緯をお聞かせいただければと思います。

渡辺(SU)： 私は、普通高校を出て、東京の専門学校に行ったのですが、積極的に建築を学ぶことはなく2年間を過ごしました。そして、いざ就職というときに、長男ということもあり新潟で設計事務所を探そうと職安へ行き、今の事務所の求人がありました。入所後、先輩方に、色々と教わり、そこでビビッときて建築の奥深さにひかれ、本や雑誌を読みあさり、そこから建築を始めたという感じですね。事務所に入ってから建築に対する思いが芽生えて、そこから強くなった形ですね。

齋藤(司会)： 私も、最初から高い志ではなかったのですが、仕事をしていくうちに変わっていくというのはよくわかります。

中野さんはお父様の家業を継がれた訳ですがどうでしたか。

中野： 小さいとき、家の隣に事務所があって、そこに製図台が何台か置いてあり、鉛筆と消しゴムがいっぱい転がっていました。仕

出席者(敬称略)

齋藤 昌之 (株)NSK建築構造研究所

近山 富貴 (株)堤建築設計事務所

中野 元 (有)オヤマツ設計事務所

渡辺 純一 (株)S.U建築設計

渡辺 文司 (株)コンフォルト

丸山 健一 【副理事長】(有)丸山建築設計事務所

司会 齋藤 学 【事業委員会委員長】

事をしていない時は、勝手に、事務所で友達と遊んでいました。実際、父親が、何の仕事をしているのかはよく分からなかったのですが、建物の図面がいっぱい転がっていた記憶はあります。

将来的には、自分で何かをやりたい気持ちがあって、別にそれが建築というのはなかったのですが、高校に入って、大学進学を考えたときに、漠然と建築の方へ行っただけという。それしか選択肢が見つからなかったというのがその時の感覚でした。しかし、それがどのように将来へ結びつくか分からず、何となく大学時代を過ごしたのですが、いざ就職となったときには、父親と一緒にやるものだと思っていました。ただ、一度は社会人として勉強してきた方が良いということで、いったんは東京の会社で働きました。そして、父親が60歳になった時に新潟へ戻ってきたというのが経緯です。

齋藤(司会)： 戻ってくるのが普通というか、当然のように思われていたということですね。近山さんはどうでしたか。

近山： 私も長男で、新潟には帰ってこなければいけない思いながら東京の専門学校へ勉強しに行きました。アルバイトでコンクリート打ちを経験したりするうちに、ちょっと大きい橋みたいなのを設計してみたいなと思って、その延長線上に建築があり、建築設計を専攻して2年間勉強して、新潟へ帰ってきました。

当時はバブル前で、就職を探したのですが見つかりませんでした。そんな時にふと考えると、出身の弥彦小学校と近くの巻文化会館が、結構いい感じの建物というふうに記憶していたので、それを設計した事務所に行ってみようかなと思い、色々な方に聞いて今の事務所の門をたたきました。

最初、所長に会って色々話を伺ったときに、「技術は教えないけれど、人は育てます」と言われて、意味が分からなかったのですが、ずっと所長の運転手で色々な話を聞いて、意味が分かってきて、この事務所ですってこう思いました。

齋藤(司会)： 渡辺さんの経緯はいいかですか。



齋藤昌之 (株)NSK建築構造研究所

渡辺(コンフォルト)： 建築への取っ掛かりは、大した話はなく、中学校時代に野球をやっていて、当時、強かった工業高校へ憧れていて、行くならば建築科かなと思っていました。結局、工業高校へは行かなかったのですけれども、漠然と建築への意識が残り、その後、普通高校を経て、建築の専門学校へ行きました。

私も学校は東京へ出ていましたけれども、2年間住んで、もう、住みたくないということで、卒業する時に、新潟で事務所を探して帰ってきました。

齋藤(司会)： 齋藤(NSK)さんは構造設計ですけど、最初から構造志望でしたか。

齋藤(NSK)： 最初、事務所に入ったのは意匠だったのですが、その時から、最終的には構造をやるうとは思っていました。学生時代から専攻は構造でした。

齋藤(司会)： 私も、大学時代は構造系でした。それが、就職活動の時に大学の教授に相談したら、構造ではたぶん就職できないよと。枠も少ないので無理だよという話をされて、それで意匠といいますか、住宅設計の仕事を選択しました。やりたいことを貫いてきたというわけではないのですが、皆さんも、新潟で始めるきっかけは様々でしたが、続けていくうちに新潟や建築に対する思いとが変わってきたということはあるですか。

近山： やっぱり変わってきていると思います。ただ、最初に抱いた建築設計をやっているという強い思いは変わらないのかなと思います。形に残って、非常にいい仕事だなと。

齋藤(司会)： やっぱり自分で設計したものが形になってくると嬉しいですね。渡辺(SU)さんも今の事務所へ入ってから、変わってきたという感じでしょうか。

渡辺(SU)： そうですね。まったく建築を知らないで入ったので。当時、図面は手描きでした。まずは、それが楽しかったですね。シャープペンシルの重さや芯の太さとかを使い分けながら1枚を描き上げていくのがすごく楽しかった。これはすごく良い仕事だと思



近山富貴 (株)堤建築設計事務所

ました。その頃ようやく、安藤忠雄を知って、学校で建築を学んでいなくても一生懸命頑張れば、一人前になれる仕事なのかなと思いい、変わりましたね。当時はそれで頑張れた。

先輩からの教えで心に残っていること

齋藤(司会)： 会社に入って、先輩からの教えはありましたか。教えてくれるというよりは、見て覚えるという風潮だったのでしょうか。

渡辺(コンフォルト)： そうですね。現場 100 回じゃないけれども、現場を見た方がいいぞ、良い作品もいっぱい見たほうがいいぞと言われたのは覚えています。今も若い人には、現場だけじゃなくて色々な建物をできるだけ見たほうがいいぞとよく言っています。若い時に体感するのは大事なことだと思います。

近山： 積算で言われたことで思い出があって、設計が終わると会議室に集まってみんなで積算をするのですよ。最初は建具のガラス拾いとかシーリングの拾いなのですが、慣れてくると詳細な部分も任されて。積算っていうのは見えないところを拾うのだと。描いていなくても、その裏にある必要なものを拾い出していくのだと言われたのを覚えています。

齋藤(司会)： そう言った教えをベースに設計を行なう上で心がけていることや、実践してきたことはありますか。

中野： うちが設備業者なので、様々なお客様とお付き合いします。事務所、市町村、民間でも鉄道系とか、道路系とか。そうなるとそれぞれに発注の仕様書が違うので、成果物のとりまとめ方も全て違ってきます。新潟市であれば当然積算があって、新潟市の書式で積算して、県も市も一緒ですね。国になれば積算の書式ももっと細かくなって、書式も違う。また、建築設備と土木設備の積算も違う。まず、その業務の発注仕様書がどういう成果物を求めているのかを認識することから始まります。その中で、意匠事務所のやり方も多種多様なので、それに合わせてやっていかなければいけない。



中野元 (有)オヤマツ設計事務所



渡辺純一 (株)S.U建築設計

要は、この合わせるということを心がけていて、この人はこういうふう
に処理をするというのを把握して、スケジュールの中で必要なものを
整理していく。あとは、新しい技術だとかその基準は変わるので、
2割くらい勉強時間を取ります。そして、関わる人が多いので、それ
ぞれのいいところを吸収するというのが心がけているところです。

近山: 私は、お客様を驚かせないというか、「え、こんなだった
の?」って言われないように心がけています。なかなか図面だけで
は理解してもらえないので、色々なものを使って完成したのを予想
して伝えること。それを共有すること。できあがって、驚きがいい方
の驚きならいいのですが、こんなつもりじゃなかったって言われる
のが一番辛いので。建物って高価なものなので、設計の内容をし
っかりと伝えて、同じ方向で進めていくことを心がけています。

斎藤(司会): 公共物件だと、こういった話がよく出てきますけ
れども、地域住民の方とかともお話をすると、それをまとめるのも大
変じゃないですか。何か心がけているというか、注意していること
てありますか。

渡辺(コンフォルト): ワークショップとかもやりますけれども、住
民の意見を何でもかんでも入れることも当然できませんし、公共の
物件ですとそのへんの整理は難しいところがありますよね。当然予
算も決まっていますし、役所の担当者の考えもありますし、役所の
内部でも部署がいくつか分かれていたりして、部署ごとにまた違う
意見もありますので、そういったのを総合的に、整理して、提案して
いくのは、なかなか難しいですよ。コミュニケーションの力は、本
当に大事だと思います。国語力がないと設計ができないうらに思
っています。

斎藤(司会): 図面を描いて表現するのも大事なのですが、聞き
取る力がないと図面を描けないというのはすごく思います。

渡辺(SU): 近山さんがおっしゃっているとおり、お互いに認識
が違って、それが後々問題になったり。それを1回起こしちゃうと信用
を失ってしまうので、本当に気をつけなくてははいけないと思って

いるし、今渡辺さんがおっしゃった国語力、いわゆるプレゼンが上
手だと、お客さんを説得しやすいし、理解してもらいやすい。私も、
もっと説明がうまくなりたいなと思っています。自分の考えているこ
とをしっかり理解していただきたいと思うし、もちろんお客様の考え
もしっかり聞き取る力は本当に重要だと考えています。

斎藤(司会): 斎藤(NSK)さんですと、お客様相手というよりは
意匠事務所さんとの打合せが多くなってきますけれども、こういうデ
ザインを実現したい、みたいな相談が多いわけですよね。

斎藤(NSK): 難しく考えずに、できるだけシンプルにして未知
数を少なくしようとしています。その中でできないことはしょうがない。
何個か答えがあるならば、一番分かりやすい答えを選択しようとは
心がけています。結局、シンプルで分かりやすく設計した方が安全
だと思いますし、あとは、経済性のことも頭にあります。

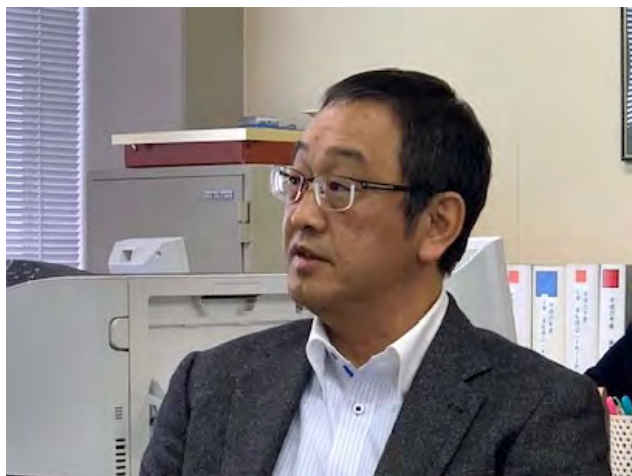
斎藤(司会): 新潟だと、積雪荷重も出てきたりするので、ほかの
県の設計をするよりは条件が厳しくなることもあるのでしょうか。

斎藤(NSK): 鉄骨だと、屋根の部分で普通の2~3割増だと言
いますから、新潟市の感覚でやっていると、怒られることも多々あり
ましたね。

斎藤(司会): 意匠設計の中でも、新潟の地域性みたいところで
難しいところってありますよね。諸条件を突き詰めると、自分のや
りたいことを消していかなきゃいけなくなる。私なんかは、若いころ
は建物の意匠性みたいなのに、思いを持っていきがらで、年を
取るにつれて、住みやすさとか使いやすさの方へ重要度がシフト
していつているような感覚があります。

皆さんは、新潟で仕事をしていく上で心がけている点や、お客様と
お話をされたりしていることはありますか。

近山: 十日町の建築士会で、技術委員会で一緒だった人も、そ
のことを言っていました。十日町はすごい積雪なので、設計スタイル
はどうしてもごつくなくなってしまふ。ただ、それがまた十日町らしい
建築になるのかなとも言っていましたね。東京のまねをする必要は



渡辺文司 (株)コンフォルト

ないと考えています。その地域に合った建物をつくっていくのが重要だと思います。

新たな技術や、仕事の進め方へどのように対応していくか

斎藤(司会)： 実際に、今使っている CAD の次に BIM が出てきたり、仕事の進め方にしても建物の設計だけではなくてマネジメントにも関わってきたりと、いろいろと変わってきています。設備に関しては、建築の技術よりもすごいスピードで進んでいたりします。そういうところに対して、どう対応されていますか。

中野： 物件の中でないと勉強できないので、新しい技術を使った物件には、常に取り組むように心がけています。スケジュールが厳しかったとしても、頑張って、皆でその情報を共有しています。設備は、基準がどんどん複雑になってきて、基準書もすごく大量にあるので、物件に関わっていかないと知識は付かないです。

斎藤(司会)： そうすると、事務所内でも勉強会みたいなものとか情報共有というのは積極的に行なっている。

中野： そうです。うちは物件ごとに設計要領書をつくっていて、その物件との関わり方、調査項目、図面の作成方法に至るまでまとめておきます。公共物件であれば積算とリンクするので、公共単価があるものを図面に盛り込んでいかないといけない。その場合は、この情報を盛り込めるよっていうのを予めまとめておきます。なるべく手戻りがないような要領書をつくってみんなで回覧をします。1つ物件が終わって、マニュアル化できそうなものはします。冊子にまとめて、それも全部回覧しています。

斎藤(司会)： あとはプロポーザルなんかで協力を求められたときは、提案も求められるじゃないですか。そのときも、やはり新しい技術を提案されますか。

中野： 特に新しい技術を無理に入れるつもりはありません。求められればやりますけれども。主題に合ったものなるべく提案をしていこうって心がけています。自然エネルギーの利用とかを1ペー



座談会の様子

ジ丸ごと提案しなさいとかだとわれわれが活躍できるのかなと。あとは、あくまでも、プロジェクトリーダーの考え方を聞いて、その中で考えて提案する感じですかね。

斎藤(司会)： 近山さんは、早くからBIMを取り入れられていたけれども。

近山： そうですね。BIMは次の世代への継承のキーポイントになる道具かなと思っています。年を取ると、経験と技術は持っているけど、やはりCADを使用する等の情報処理能力としては落ちてくると感じていて、そこを埋めるのがBIMとかになってくるのかなと思っています。

若い人が入って、一緒にBIMを使った時期があるのですが、非常に有効だと思いました。若い人は操作をすぐに覚えますし、建築の知識がなくても操作はできるわけです。BIMをやりながら建築の知識を覚えるので、若手育成には効果があると思います。

そして、仮想空間をつくっていますので、CAD上の建物を目で見て確認できることは大きなメリットだと思います。我々が若いころは、建物ができるまでどうなるか分からない部分がありましたから。

そして、BIMは、設備・構造と一緒にやっていくと、非常に効率的になるのではないかなと考えています。

ただし、実際に建物をつくる技術はやっぱり現場ですよ。つくっているのは人ですし、そこは変わらないと思っています。

斎藤(司会)： 私が気になっているのは、プロジェクトのマネジメント業務の提案も出てきている点です。企画運営も一緒にプロポーザルで提案しなさいと言ってきたときに、設計事務所だけでは対応できなくて、他に知識のある人を入れてチームをつくらないとできなくなってくる。そういうところで、他業種とのコラボレーションみたいなことを考えていますか。

渡辺(SU)： 従来通りのプロポーザルであっても、我々建築だけでなく、他の分野の人と組むと、提案としてはかなり変わるのではないかなという気はしていて、面白いかなと考えています。

民間の技術者として、公共の技術者との関係はどうありたいか？

斎藤(司会)： 例えば、市から業務を受ける時には、概要が決まっていることが多いのですが、時には地域との話し合いのときにアドバイザーとして参加することもあります。様々な関わり方がある中で、市と我々の立場を割りきった付き合いではない方が良いのかなと思いますけれども、理想的な関係についてお考えはありますか。

渡辺(コンフォルト)： 業務の内容にもよりますが、基本的には、もう少し設計者が主導する意識が大切かなと思います。立場に捕われず、業務を先導して進めていく積極性が重要なかなと思います。

中野： 役所の中にも、色々な人がいて、リーダーシップを出して引っ張る人もいれば、調整力や提案力のある人もいる。それぞれの立場で尊重し合いながらチームを構成することも大切かなと。

斎藤(司会)： 良い関係性をつくるには、仕事だけじゃなくて、ワーキンググループのような活動なり、夜のお酒を共にしながら、建築や、新潟に対しての思いなどを話していくことが必要だと思います。そうして、お互いの思いを共有していく事は、業務を進めていく上でもプラスに働くと思っています。

業務完了時に、納品しておしまいでなくて、担当者が集まって「あれまなかったね」「これはもうちょっとこうやればよかったね」みたいな、意見交換会があってもよいのかなとか思います。

あと、組合としては、市からの業務委託について、個々の事務所だけでは対応が難しいような案件、70社いるからこそ対応できる案件、例えば、大規模改修のような物件数が多い仕事で、組合へ委託することのメリットをアピールしていきたいと考えています。

新潟の地で設計をすることについて

斎藤(司会)： 最後に、新潟の地で設計をすることに対して、今、どのように思っているのかをお聞きしたいと思います。

近山： 新潟で住んでいるから状況を分かっているつもりなのですが、先日、ご一緒した日本工業大学の前学長 波多野さんが、私が気づいていない弥彦の良さをいくつか教えてくださいました。外からの視点で見ることも大事だなと。そのようなことを考えながら、自分が住んでいる新潟を良くしたいなと、最近強く思っています。

渡辺(SU)： 設計事務所全体の役割というか、我々の建物の機能やデザイン等の価値を上げる努力を怠らない設計によって、新潟の人たちの建築の見方が変わること、新潟に良い建築がもっと増えていくのかなと思います。

斎藤(司会)： 中野さんは、最近東京の方での仕事も多いですが、新潟と東京で違いはないですか。

中野： 東京の事務所だって東京の物件だけをやっているだけじゃなくて全国の物件をやっているわけで、新潟にいるからって、他

県の仕事をしていたっていい訳です。あまり狭く考えたくないなと思っています。東京の設備事務所には負けていないなという気持ちでやっています。

ただ、新潟でしかできない仕事ややっぱりあって、地元に着した仕事も大切にしていきたいと考えています。

斎藤(司会)： 私は、大学進学で新潟に来たのですが、新潟のまちは、すごくきれいだと思います。信濃川がまちの中を流れていて、素晴らしい所がいっぱいあるのに、住んでいる方々が気づいていない。謙遜しすぎかなと思います。この前、金沢の街を見てきましたけれども、金沢の人たちは自分達でアピールしているイメージがあります。

新潟の人たちは、東京の方を見すぎていて、向こうにあるを持ってきて、それで盛り上げようという考えが強い気がします。新潟らしさを活かしていくと、もっと素敵な街になるのかなと思います。

丸山(副理事長)： とにかく新潟で生まれ育ったので、土地に愛着があって、その中で、建築にどう取り組み、発展させていかだと思っております。我々がいなくなっても、自分が設計したものは残っていくと考えたときに、どういう思いでつくるのか。その思いを受け継いでいく人をどのように育てるのか。聞いてみたいです。

中野： 先程、近山さんが入所したときに所長と一緒に行動していたと仰っていましたが、それがすごく大事だと思っていて、最初は一緒に動いて、どんな人かお互いに分かってきた中で、会社のやり方を共有していくのがよいのかなと思います。

斎藤(司会)： 我々の先輩方も、技術は教わらず、自分で身につけてきたという話をよく耳にしますが、皆さんはどうお考えですか。私は、各人が持っている技術や知識が一代で終わってしまうのは惜しい気がするのですが。

近山： そうですよ。やっぱり共有って大事だなと思っていて。例えば、事務所のメンバーで同じものを見て、聞いて、感じることで情報って共有できて、設計に対しても話ができると思います。組合もそうだと思います。共有することで、みんなが一緒にやっていくことなのかなと思っています。

斎藤(司会)： 建築に対する技術や思いも、共有していく事が大切だという事ですね。第一部でお聞きした話もそうですが、次の世代の方々に引き継いでいきたいものがたくさんあります。

組合としては、次の世代を担う方々と先輩方、また、市の職員の方々と組合員などの形で、建築に対する技術や思いを共有していく場を提供していく事が重要だと感じました。

今後の組合活動に生かしていきたいと思っています。

本日はありがとうございました。

平成30年11月16日

「ZAHA HADID 案新国立競技場の設計」

講師 右高 博之 氏
(株)日建設計 デザインスタジオ主管
杉浦 盛基 氏
(株)日建設計 構造設計グループ部長



NcAU 新潟市建築設計協同組合 35周年記念講演会



2013～2015年にかけて設計を行った Zaha Hadid Architects 家の新国立競技場は、2本のキールアーチとカテナリービームで構成された花びらのような屋根が特徴のスタジアムであり、この屋根を含むスタジアムの設計の際に何を考え、協議し、また設計時のツールとしての CAD (Computer Aided Design) がどのように使われたのか等について、実際に設計に関わられた恩匠・構造の設計担当者より紹介させていただきます。

設計監修: Zaha Hadid Architects
設計: 日建設計、梓設計、日本設計、オーヴアラップアンドパートナーズジャパンリミテッド設計JV

右高博之 (みぎたかひろゆき) (株)日建設計 デザインスタジオ アソシエイト

杉浦盛基 (すぎうら しげき) (株)日建設計 エンジニアリング部門構造設計グループ 部長

2018.11.16.fri.14:10~17:10 (OPEN 13:40)

会場 | 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 2階 メインホール (スノーホール)

対象 | 新潟市建築設計協同組合関係者 新潟市役所職員 県内建築関係者 建築を学んでいる学生

CPD | 3単位申請中

定員 | 200名 / 入場無料

申込 | 2018年11月2日(金)まで氏名、所属先名、連絡先TEL、メールアドレスを明記の上、下記へご連絡ください。

※CPD制度に加入されている方は、申込の際にCPD番号、または建築士番号をご記入ください。

申込み先: FAX 025-266-5005 メール s-sekkei@ajoros.ocn.ne.jp

問合せ先: 新潟市建築設計協同組合 TEL. 025-266-5533

資料提供 ©Zaha Hadid Architects





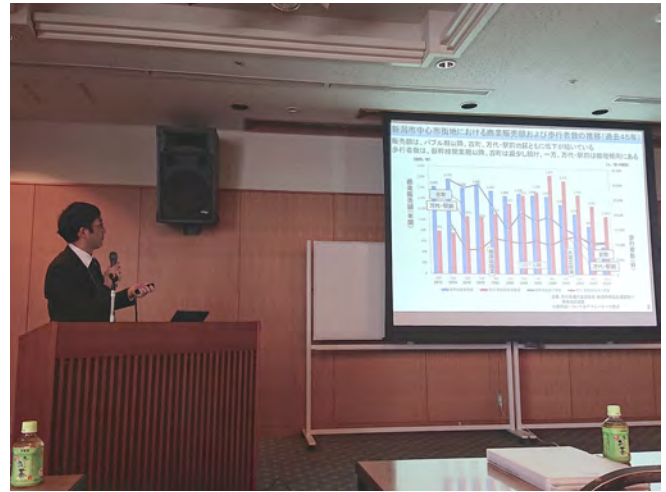
平成31年1月18日

「新潟市のまちづくりの可能性」

講師 新階 寛恭氏
新潟市技監

「ZEBについて」

講師 市川 拓也氏
(株)山下設計 機械設備設計部長



表紙写真：テート・モダン新館「スイッチ・ハウス」
設計：ヘルツォーク&ド・ムーロン
撮影：番匠建築設計工房 番場 清

創立35周年記念号 担当：事業委員会

新潟市建築設計協同組合
機関紙「睦び」48号